

記者会見するNPO法人「しあわせなみだ」の中野宏美理事長(右)と東洋大の岩田千亜紀助教(中央)ら＝4日午後、東京・霞が関の司法記者クラブ



障害者の性被害防いで

障害者の性暴力被害は、抵抗したり、自分の思いを伝えたりすることが難しいために深刻化しやすい。取り上げられることが少ない発達障害者の被害に注目したNPO法人は、アンケートを実施。結果からは障害者の特性が関係した可能性もつかげ、発達障害を含め、障害者の性被害を防ぐための法的措置が必要だと訴えている。

松山市湊町5丁目6
したフィギュアスケ
新聞の単独インタビ
を語った。

フィギュ



現在の活動やフィギュ
への思いを語る浅田真
＝4日午前、松山市

NPO法人アンケート

法的措置必要訴え

アンケートをしたのはNPO法人「しあわせなみだ」。4日、東京・霞が関の司法記者クラブで概要を発表した。アンケートは、大人の発達障害者が集うスペース「ネッコカフェ」(東京都新宿区)の利用者を対象とし、32人から回答を得た。

それによると、23人が「望まない人に性的な部分を触られる」など、何らかの性暴力を経験。何回も被害に遭っている人もいた。望まない人に性交されたことがある人は22%に当たる7人。昨年、内閣府が実施した「男女間におけ

る暴力に関する調査」で「無理やり性交等された経験がある」と答えた人の割合4・9%(女性7・8%、男性1・5%)を上回った。

中学時代に同級生から胸を触られるなどの被害に遭った30代女性は、アンケート後に法人のインタビューに「ひどく傷ついた。人間として扱われていない感じがした」と説明。自己肯定感が低く、「ノー」と言えない。言える立場じゃない、というのが潜在意識にある」とした。

結果を分析した東洋大の岩田千亜紀助教(障害者福祉)は、安易に発達障害者が性被害に遭いやすいとの結論を導くことはできないとした上で「被害に遭った要因には、自己肯定感が低い、相手の気持ちに気付くことが難しいなど、障害者の特性が関係しているとも考えられる」と指摘する。

ニア選手が増えている。スケート教室などを通じ、興味を持ってくれる人は増えたと感じる。愛媛の近くでは広島県や福岡県でツアーを開催する。見に来てくれた子どもが「こうなりたい」と思ってくれるよう、夢を与えていきたい。

大飯原発訴訟

関西電力大飯原発3、4機の運転差し止めを認めなかった、4日の名古屋高裁一支部の判決要旨は次の通り(1面参照)

【判断基準】

原発設備に事故を起こす危険があり、放射性物質の漏れ放出を招く危険がある場合は、人格権を侵害するとして、運転差し止めを請求できず、わが国の法制度は、原子力電を一律に有害危険なものとして禁止せず、重大事故がじて放射性物質が異常に放される危険などに適切に対すべく管理・統制されていると認められている。原発の運転に伴う本質的・内在的な危険があるからといって、それ自体で人格権を侵害するとはえない。福島原発事故の深刻な被害の現状に照らし、わが国のとるべき道として原子力発電そのものを廃止・禁止

【紙面編集】藤田陽一郎